

FSS (エフサス) 工法

濡れた砂を吹き付けるブラスト

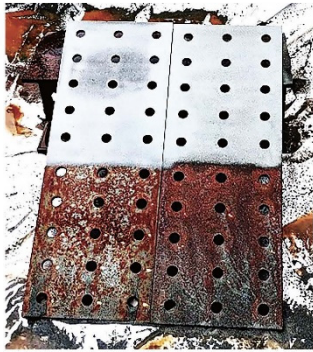
FSS工法協会 栃木で実演会

濡れた砂を吹き付けるブラスト「F砂S（エフサス）工法」で社会貢献を目指すFSS工法協会（会長＝横内良成・伊藤忠TC建機執行役員）は11月14日、賛助会員会社・栃木県さくら市のカセツリース（高木章社長）で実演会を開催。会員、設計コンサル、ゼネコン、塗装や架設の各工事会社などから40人が参加した。



工法で使う装置 torbo（トルボ）

「F砂S」というユニークな名称は、「濡れた砂を吹き付ける」を意味するドイツ語の「sand」



添接板の作業前(下)と作業後(上)

「砂」の部分に日本語の「砂」を充てたもの。同工法は、気化水溶性防錆剤を加えた水と非金属系研削材をブラストタンクで混ぜ、泥状（スラリー）にして鋼材に噴射する。その表面層分を除去しながら、塗膜は離れ素地調整を油潤環境で行う手法だ。

「粉じんがほとんど飛散せず」「時間経てもターニングなし」

（6面に続く）



斎藤社長



高木社長

（1面から続く）
F砂S工法の実演は



猪狩部長

「素地調整から時間」が経ってもターニング（戻りき）がなかったなどの声が上がった。主催者を代表して、斎藤塗装工芸（栃木県板橋市の斎藤正弘社長は）「これまで溶剤中毒や血中鉛上昇が懸念される現場に作業員を送ることができなかった」とし、本工法を活用すれば、作業員の安全性が高まり、発



実演会場の様子



ノズル

FSS工法協会は今年、会員19社で発足した。装置1基当たりの日施工量が20㎡であることから、面積500㎡程度の鋼橋塗装替え工事を主な対象に、融雪剤散布や沿岸部などで塩害が多い地域の橋梁に有効な素地調整工法と推奨している。採用実績は、昨年度までに国土交通省、高速道路会社、JR、岩手・岐阜・愛知各県、金沢市など累計17橋に上る。「今年度はは20橋を超える見込み」（事務局）だ。

また、安全衛生保護具や足場養生などが積型ブラストより軽微で済むことを説明。「PCや鉛を含有し、かつ塩害を受けている塗装の除去は本工法が最適」と話した。

注者が求める品質を担保できるため、安心して現場に送り出せる」と強調した。

◆ 実演に先立つ講習会では、中央コーポレーション（岩手県盛岡市、佐々木史昭社長）プロジェクト部の猪狩達夫部長が、工法開発の背景と防食の課題などに触れながら、工法の特徴やドイツ製ブラスト装置torbo（トルボ）などを紹介した。